

変わらないもの

千

大学を卒業し、私の肩書きは大学生から社会人へと変わった。しかし、その差は何なのか。働き始めれば、自然と社会人としての自覚が芽生え、社会人とは何たるものかを実感し、言葉で表すことができるようになるのだろうか。

私自身が漠然と感じている学生と社会人の差は、責任の重さや自由な時間、翌日に対する意識である。例えば、大学の講義を寝坊や二日酔いなどの自分の都合で欠席しても、自己責任で片付けることができたが、社会人として働く人の日常では、自己責任では済まず、周囲や勤め先にまでも影響が及ぶだろう。社会人としての一步を踏み出した瞬間から、人生最大のモラトリアムは終りを告げるのだ。好きな時に好きな場所へ行ったり、好きなだけ寝たり、夜ふかししたり、次の日のことを気にせずお酒を飲んだり、“学生だから”と免除されたりすることは、もうないのである。

しかしながら、今まで述べたのは自分の身が置かれている環境の変化にすぎず、自分が何を意識し、考え生きていくかは、社会人になっても何も変わらないのではないのか。

“Today is the first day of the rest of my life.” という言葉がある。この言葉は、毎日気持ち新たに一日を始める活力や新しいことへ挑戦する勇気を私に与えてくれる。そして何よりも、今日という一日の大切さを実感させてくれるのである。一日一日が人生のかけがえのない時間だと捉えれば、毎日を全力で生きようになる。今日は良い日や悪い日だったと決めてしまったり、後悔したりするのではなく、全力で生きたのなら、それだけで一日の終わりは充足感で満たされるのだ。この考えとこの言葉の持つ影響は、私の肩書きや周囲の環境が変化しても変わらないだろうし、これからも大切にしていきたいと思う。そういった意味では、学生も社会人も関係なく、私にとっては同じなのである。どう生きていくかは、常に自分次第。私は私らしく生きていく。

「大人」と「子供」と「社会人」

のえあい

成人していても「大人気ないなあ」「大人になりなさいよ」「ほんとうに子供だなあ」なんて言葉をよく耳にします。親に言われたりすると、ムツとしつつも、自分でもまだまだ「子供だな」って思うこともしばしばあります。「大人」と「子供」。無意識に使っている言葉ですが、私自身、その意味をよくわかっていません。

「大人」ってなんでしょう？

もちろん、「大人」というのは厳密には20歳以上の成人のことだけれど、一般的な「大人」と「子供」の線引きは、もっと精神的なところにあるような気がします。

「大人」と言えば、成熟している、理性的、合理的、現実的、自立、責任を負っている、「子供」は、無邪気、無知、感情的、依存、気まま、そんなイメージでしょうか。

なんだか、私にとって大学生は「子供」でした。一方で、社会に出て働き始めると「大人」のように思えます。

それは、学生という、ある種の社会的な責任から遠いところにある存在であったからかもしれません。経済的にも親の援助に支えられてきました。まだ学生だから、ということで多少の無礼が許されたりすることもありました。成人式に出席してみても、大した実感もなく、これまでと変わらない生活でした。

社会に出て、働き始めると、一会社員として責任や義務が生まれます。金銭的な余裕や、自分自身の裁量も大きくなります。管理された社会制度のなかで自律的に生きていくことが求められます。このような環境の中でたくましく生きているのが「大人」達なのかなと思います。

気がつけば今年から社会人。大学生活はほんとうにあっという間でした。大学を卒業し、今年から社会人として働き始めます。社会人になることは、私にとって、「大人」になるための大きな一歩のような、そんな気がします。

【 社会人 】

社会人の広義・狭義の意味

社会人研修生

十数年にわたる学生生活も終盤に差し掛かり、社会人となる時が刻々と迫ってくる。もう学生気分ではいられない。社会人になるからには、会社の一員としての自覚を持ち、責任を持って仕事に取り組みなければならないのだ。そう思った時、脳裏にふと疑問が浮かんだ。社会人とは一体何なのだろうか？社会人という単語は日常的によく耳にする言葉であるが、私は実際のところその意味を理解していないのではないか。

社会人とは広義と狭義の意味を持つ言葉であるらしい。社会人という概念を正しく理解するためには、広義と狭義、2つの意味を知っておかなければならないだろう。元来、社会とは人と人の繋がりや集まり等の所謂人間同士のコミュニティを指す Society を日本語に訳したものである。欧米では例え職業に就いていない者であっても、他者と何らかの関わりがあれば社会に所属する人、つまり社会人とみなされる。他人と一切の関わりを持たない人間は存在しないため、人間はみな社会人であるという欧米流の考え方が広義の社会人である。一方、現代日本に代表される会社社会においては通常、社会人とは会社員とほぼ同義の語であり、会社や組織に所属して一定の雇用上の地位を得ることを指す。そういった労働の対価として賃金を得る労働者としての姿が狭義の社会人である。

日常で使われる社会人とは後者の意味合いが強いものであるが、前者のコミュニティを形成する基礎としての存在も決して忘れてはならない。仕事をするにあたって、人間は誰しも何らかのコミュニティに属しているものである。他者と関わりを持つことなくして仕事は成り立たないのだ。従って社会人とは人と人との繋がりの中で自分の責任・使命を全うする人なのだろう、と私は理解した。



「社会人」の定義って、何？

E.M

社会人というテーマから、私はそもそも社会人の定義とは何なのだろう？と気になりました。私自身は社会人の定義を聞かれると、社会で働いている人全般はもちろんですが、“会社”で働いている人の事をより強く指すもののように感じます。例えば、ピアニストや画家のような芸術家の人々を社会人という言葉で表現するのは少し変な感じがするからです。それよりも職人という言葉で表現するほうがしっくりきます。では一体社会人の定義とは何なのか？

まずは調べてみることにしました。ネットを検索すると社会人についての資料が山のように出てきました。一般的な定義は社会で責任を持って生活している人を指すようで、労働者と同じ意味を表すことも多いようです。

ただ調べてみるとわかることが他にもありました。私が思う社会人のイメージと同様のイメージが世間でも定着しているということです。さらにはこのような考え方は日本独特の考え方で、どこの国でも社会人=会社人という考え方をしているわけではないようです。欧米では子供も大人も関係なく、就職していても退職していても皆社会に参加していればそれは社会人と定義しているようで、日本独特のニュアンスを含む言葉がないのです。辞書で社会人を検索してみると member of society や adult で表されていて、日本人が言いたい“社会人”とは少し違う気がします。

更に調べてみると日本と欧米の違いだけでなく、日本の中でも社会人という言葉の概念がない地域もあることがわかりました。それは農業や漁業などの仕事が多い地域で、そこには社会人という概念があまり浸透していないようです。

今回、社会人という一つのテーマから色々調べてみましたが、興味深い事が沢山わかりました。このように何か一つの事についてまた調べてみたいなと思いました。